

山階鳥類学雑誌投稿規定

山階鳥類学雑誌 Journal of the Yamashina Institute for Ornithology は、広く鳥類学に関する原著論文、短報、総説、報告、雑録などを掲載する。受け付けられた論文のうち原著論文、短報、総説は2名以上の査読者による査読を受けるものとする。論議のないものを報告とし、これについては査読者をつけず、編集委員会による校閲を行う。その他、書評、誌碑などに充当するものを雑録として掲載する。年2回発行し、1年で1巻とする。

・原稿の書き方

原稿はA4用紙の上下左右に3センチの余白をとり、日本語または英語を用いて横書きで作成する。原則としてワードプロセッサ等を使用して作成する。この際、10ポイント以上の文字サイズを使用し、紙面に20から25行程度とする。英文の場合、右端の単語のハイフネーションは行なわない。原稿は用紙の片面のみに記入する。

原稿の第1ページには、表題、本文・図・表の枚数、著者名、著者（2名以上の場合は責任者）の住所、電話番号、電子メールアドレスを記入する。また、原著論文、短報、総説、報告、雑録のどのカテゴリーとして投稿するのか明記する。第2ページからタイトル、著者、著書の所属・住所を含む本文を開始し（下記の論文の構成を参照）、下端中央の余白にはページ番号を記入し、左右どちらかの余白に各行の行番号を記入する。

原著論文、短報、または総説の場合、言語に応じて「はじめに Introduction」から「論議 Discussion」まで等の項目を立てて記述する。短報は印刷ページ数が10ページ以内とする。印刷ページ数10ページの目安は、図表分を勘案せずに和文なら15,000文字程度、英文なら39,000文字程度（スペース含む）である。報告の場合も必要に応じて項目立てをしても良いが、解釈を必要とする考察・論議・結論は報告では書かないので、そのような項目を設けない。日本語の短報および報告においては、日本語摘要は省略する。日本語の論文では句読点は「、」と「。」を用いること。英語の論文では、英語表現の問題によって却下されることがある。したがって、著者の責任において投稿前に英文校閲を行うことを強く勧める。

【日本語の論文の構成】

表題（日本語）、著者名（日本語）、表題（英語）、著者名（英語）、全ての著者の所属・住所（日本語と英語）、Abstract（英語）、Key words/キーワード（英語と日本語）、はじめに、方法、結果、論議（あるいはまとめて「結果および論議」としてもよい）、謝辞、摘要、引用文献、表、図の説明文、図、（付表・付図）。報告の場合は、上記のうち論議にあたるものはつけない。

【英語の論文の構成】

表題（英語）、著者名（英語）、全ての著者の所属・住所（英語）、Abstract（英語）、Key words/キーワード（英語と日本語）、Introduction, Methods, Results, Discussion（あるいはまとめて「Results and Discussion」としてもよい）、Acknowledgments, References, 表題（日本語）、

摘要（日本語）、著者名（日本語）、全ての著者の所属・住所（日本語）、Table, Figure legend, Figure, (Appendix)。報告の場合は、上記のうち **Discussion** にあたるものはつけない。

Abstract は原則として300語以内、摘要は800字以内とする。ともに論文の目的、方法、主要な結果および結論を簡潔に記載する。箇条書きにせず、改行をしない。**Key words** は5つ以内とし、アルファベット順（頭文字は全て大文字）に配列する。また、日本語のキーワードは対応する英語の **Key words** と同じ順序に配列する。

・生物名と単位

引用文献リストを除き、本文中に用いられた英語の鳥名は単語の先頭を全て大文字で記し（例：Tree Sparrow）、他の生物名は小文字とする。生物の和名はカタカナ書きとする。**Abstract**、本文、摘要のそれぞれにおいて、初出の生物名には学名を併記する。学名はイタリック体で印刷する。計量単位は国際単位系（SI）を使用するが、論文および報告の内容上、特に必要と認められる場合は、それ以外の単位も使用できる。

・標本および実験サンプル

用いた標本や組織サンプルなどは、その所蔵機関と登録番号を明記すること。また、研究の結果として得られたDNA塩基配列のデータはDDBJ/GenBank/EMBLなどのデータベースへ登録し、その登録番号を明記すること。

・文献の引用

本文中での文献の引用は、Wilson (1995)、あるいは、(Wilson 1995) のように表記する。複数文献を引用する場合は、(Lack 1966, Wilson & Brown 1998) のようにコンマで区切る。同一著者で複数年の文献がある場合は、(Wilson 1992, 1993) のように示す。同一著者に同一年の文献がある場合は、(Wilson 1986a), (Wilson 1986b) のように記号を用いて区別する。著者が2名のときは、(Wilson & Brown 1998), (川崎・山田 1971) のように「&」「・」でつなげる。著者が3名以上のときは、(Wilson *et al.* 1988), (川崎ほか 1985) のように第二著者以下を「*et al.* (イタリック指定)」「ほか」を用いて省略する。複数文献を列挙して引用するときは年代順に配列し、同一年の文献は著者名のアルファベット順に並べる。未発表データを引用する場合は、(Wilson unpublished data), (川崎 未発表) のように示し、複数文献を列挙して引用するときは未発表データを最後に引用する。受理されて印刷段階にある文献は、(Wilson in press), (川崎印刷中) のように引用する。

・引用文献のリスト

本文中に引用された文献のみをもれなく記載する（未発表データの引用は記載しない）。文献は著者名のアルファベット順に配列し、第一著者が同一の場合、第二著者以降の著者名のアルファベット順に配列する。同一著者の文献は年代順に配列する。英語論文における引用文献リストでは、文献が記述されている言語にかかわらず全て英語でリストを作成し、「(in Japanese)」 「(in Russian with English summary)」 のように記述言語を末尾に付記する。英文の表題がない文

献は、ローマ字表記にするが、適切な英文の表題も括弧書きで付記する。日本語論文における文献リストでは、日本語で書かれた文献のみを日本語で記載し、それ以外は英語で記載する。この場合も、日本語・英語以外の言語で記述された文献には、可能ならば表題の後に原語表題を括弧書きで付記し、記述言語を付記する。受理されて印刷段階にある論文は、年号の代わりに「in press」「印刷中」と示し、巻やページはわかる範囲で記入する。

引用文献は、単行本、単行本内の論文、雑誌等の論文のいずれかに属し、それぞれ以下の要領で記載する。なお、著者名は順位によらずいずれも姓を先、名を後に記し、著者が複数の場合は英語では「,」と「&」で、日本語では「・」で区切る。日本語で日本人の著者名を表記する際、その文字数が姓1、または名1の場合は、姓と名の間に全角1文字分のスペースを入れる(例: 千葉 真, 田 進一, 鳥 啓, 鳥 新一郎, 千葉田 啓)。

[単行本の場合]

著者名、発行年、書名(英語のときは単語の先頭をすべて大文字にし、イタリック指定)、発行所、発行地の順に、以下の例のように記載する。編書、編著書である場合は、著者名の後に(編)(編著)(ed.)などをつける。また、学位論文の引用は単行本の引用形式に準ずる。

Lack, D. 1966. *Population Studies of Birds*. Clarendon Press, Oxford.

黒田長久 1982. 鳥類生態学. 出版科学総合研究所, 東京.

Cramp, S. & Perrins, C. M. (eds.) 1988. *The Birds of the Western Palearctic*, Vol. 5. Oxford University Press, Oxford.

山岸 哲(編著) 1997. 鳥類生態学入門. 築地書館, 東京.

Freeman, S. 1991. *Molecular Systematics and Morphological Evolution in the Blackbirds*. PhD. dissertation, University of Washington, Seattle.

[単行本内の論文の場合]

著者名、発行年、表題、掲載書名(英語のときは単語の先頭をすべて大文字にし、イタリック指定)、掲載書の編者名(英語のときは名を先、姓を後に記す)、引用ページ、発行所、発行地の順に、以下の例のように記載する。

Walters, J. R. 1998. The ecological basis of avian sensitivity to habitat fragmentation. In *Avian Conservation* (eds. J. M. Marzluff & R. Sallabanks), pp. 181–192. Island Press, Washington, D.C.

永田尚志 2002. 鳥類の生活史戦略. これからの鳥類学(山岸 哲・樋口広芳共編), pp. 40–66. 裳華房, 東京.

[雑誌等の論文の場合]

著者名、発行年、表題、掲載誌名、巻、ページの順に、以下の例のように記載する。掲載誌名は省略しない。

Oka, N., Yamamuro, M., Hiratsuka, J. & Satoh, H. 1999. Habitat selection by wintering tufted ducks with special reference to their digestive organ, and to possible segregation between neighboring populations. *Ecological Research* **14**: 303–315.

上田恵介 1994. 拡張された精子競争—鳥の社会行動の進化と同性内淘汰. 山階鳥類研究所研究報告 **26**: 1–46.

・図表

本文の使用言語にかかわらず、英語で作成することを原則とする。ただし、日本語の論文において特に必要とされる場合は、日本語と英語を併記することができる。1枚の用紙に1点ずつ作成する。図は印刷されても十分読みとれるような解像度で作成する。図表にはそれぞれ通し番号をつけ、1点のみの場合も「Fig. 1」「Table 1」とする。それぞれの図表には図表番号を明記する。写真も図として扱う。原則として、写真を含めて図表はモノクロとする。投稿原稿上でもモノクロでなければならない。カラーが必要不可欠な場合は、原稿上でカラー表記してもよいが、最終的にカラーとするかどうかは編集委員会によって判断される。図の説明は原稿の表の次ページからまとめて記入し、図中には記入しない。表の説明は表の上に記入する。

本文中で複数の図表を引用する場合は、(Figs. 1 & 2), (Tables 5, 6 & 7) のように示す。

・付表, 付図

必要に応じて付表, 付図をつけることができる。作成は図表と同様の要領で行なう。通し番号をつけ、1点のみの場合も「Appendix 1」とする。原稿中では、付表は表の次, 付図は図の次に配置する。

・原稿の送付

電子ファイルとして作成された原稿は電子メールに添付して〈journal@yamashina.or.jp〉宛てに送る。原稿を作成するアプリケーションはMS Wordが推奨される。この場合、MS Wordの標準ファイル形式で投稿できる。それ以外のファイル形式であれば、PDFファイルとして投稿するか、テキスト形式（文字コードのみのファイル）で投稿する。図はテキストファイル内に含まれる形か、別のPDFファイルとしてもよい。電子ファイルを電子メールで添付する方法ができない場合、原稿のコピー1部を折らずに以下の宛先に送付する。原図あるいはオリジナル写真は受理されるまで送付しない。

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115 山階鳥類研究所編集委員会

原稿が投稿規定に従って作成されていない場合は、受け付けない場合がある。

・原稿の審査

受け付け後の原稿は原則として、2名の査読者によって審査される。原稿の内容に問題があると判断された場合、編集委員会は投稿者に修正を求める。投稿者は原稿を改訂し、査読者の指摘に対してどのように対処したかを明記した文書ファイルを添えて、〈journal@yamashina.or.jp〉宛てに再投稿する。原稿の掲載が不相当と判断された場合は、その理由とともに投稿者に通知する。

・受理後の手続き

編集長が原稿の掲載を認めた日付をもって、受理の日付とする。原稿が受理されたら、原図あるいはオリジナル写真、最終稿を電子メールにより送付する。別刷は初校校正時に指定の用紙に希望部数を記入する（1部単位で可）。別刷は1論文につき50部まで無料で受け取ることができる。希望部数が50部より多い場合、超過分については著者が実費を負担する。

・校正

初校は原則として著者が行なう。初校では印刷上の誤りのみを修正し、内容の変更は認めない。再校以降は編集委員会が行なう。

・掲載論文の著作権

山階鳥類学雑誌に掲載された全ての論文の著作権は、(公財)山階鳥類研究所に帰属する。また、著者は、山階鳥類研究所が学術目的のため該当する論文を複製し、公衆送信することに承認を与えるものとする。

・機関リポジトリ等

山階鳥類学雑誌に掲載され、掲載号の発行日から2年を経た出版物について、出版物の著者は当編集委員会に許諾申請することなく機関リポジトリ等へ掲載してもよい。このとき出版物の外見と内容に変更を加えてはならない。

・投稿原稿に関する問い合わせ： 奥付ページに記されたEメールアドレス、または、編集庶務幹事、編集委員長の連絡先へ問い合わせること。

・規則の適用： この投稿規定は49巻2号（2018年）より適用する。